

香川大学自殺予防に向けたメンタルヘルス向上に関する研究プロジェクトについて

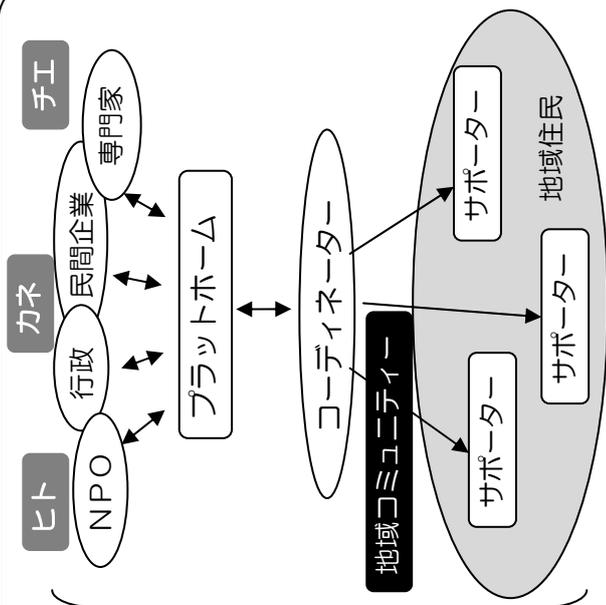
【香川大学自殺予防に向けたメンタルヘルス向上に関する研究プロジェクトの概要】

- 所在地：香川県高松市林町 2217-20 ●代表者：白木渡（香川大学危機管理研究センター長）
- 規模：事務局 3 名、講師その他スタッフ 18 名、支援者（コーディネーター）56 名
- 活動目的・内容：香川県民のメンタルヘルスに関わる実態を調査し、自殺予防に携わる人材の質、量の向上を図る。そのために、各種養成講座・カリキュラム作成・教材開発等を行い、持続可能な人材養成システムを作る。

サポーター：悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげる
コーディネーター：サポーターの活動を支援する、情報提供・講座開催・専門家との連携

- 活動内容：香川県下全体で、具体的な自殺予防のための人材育成を行う。
- サポーター講座（コーディネーターが地域住民対象のミニ研修会を開催する）
- コーディネーター養成講座（香川県下数か所にて 5 回連続開催、養成後はフォローアップ研修を継続する）

これらの活動を支援する「メンタルヘルスサポートプラットフォーム」を開発し、行政、NPO、民間企業、諸団体などとの連携を図る。また各種講座開催、教材作成、コーディネーター・サポーター・各専門家との連絡調整、ホームページ上の情報交換、県民への情報公開などを積極的にすすめる。さらに、これらの取り組みを持続可能なものとするために、自殺予防に関する各種講座の企画・運営ができる**指導者養成講座**や、自殺予防に関する**専門家スキルアップ講座**も行う。



様々なレベルのゲートキーパー

【自殺総合対策大綱改定に向けての意見】

- 地域コミュニケーション再生の視点**：我が国は現在人口減少、超高齢化社会をむかえ、経済問題や健康問題など数多くの問題を抱えている。そのなかで我々はこの課題を克服するために、失われた地域コミュニケーションを再生し、社会の基幹を形成する頑強な社会基盤を作ることが必要と考える。自殺予防・メンタルヘルスという課題はこれらの枠組みのなかで検討されるべきである。
- 総合的な人材育成システムの構築**：地域コミュニケーションの問題は衣食住の多岐にわたり、それらの問題が複雑に絡み合っているが、共通している課題として人材の不足が挙げられる。本事業での経験は、地域コミュニケーションにおける人材育成というコアの部分で他の分野（防災・保健・健康・独居高齢者支援など）にも通用すると考える。既存の地域の人材資源を生かしつつ、効果的で持続可能な人材養成システム構築が必要とされている。
- フラスの視点の情報発信**：香川県は全国的にみて、自殺者の割合が少ないことが特徴として挙げられる。その理由として、気候・経済・文化など様々な仮説が立てられているが、面積が小さく狭小な地域コミュニティでの生活が自殺予防に貢献している可能性がある。メンタルヘルスの悪化防止だけでなく、より向上させるためのプラス面の調査・研究を行い、情報提供を進めるべきである。